

新 風

題 字 学 長 佐 藤 博

1978年10月20日

(第2号)

久留米工業大学同窓会発行

印刷 久留米印刷(有)

「昭和53年度総会」

開催期日

昭和53年11月12日

“会長挨拶”

第一回総会開催について！

会 長 江 島 義 治



私どもの母校久留米工業大学は短大時代から通算しますとすでに十三年になりました。

その間に巣立っていきました同窓生は四千名を越え全国に雄飛し種々の職業につき、国家社会に貢献されております。

或る人は中堅幹部として企業を支え、或る人は自ら実業界に入り、又或る人は家業を継ぎ各々の使命を果しておられる事と思います。母校も短大時代二ヶ年の在学期間から、今は四ヶ年の在学期間となりました。二ヶ年の短い期間では同窓の誼を深めめるには至らなかったかもしれません。私自身短い交流で十分に友人も出来なかった事を残念に思っておりますが、それだけに同窓の親しみを深めたいとする欲求がしきりに湧出してくるのであります。皆様はどうですか、大学を出て実社会で激しい競争の中に身をおいた時、支えになる友人が欲しいと思われませんか、未知の地方に転任した時、誰か親しまれる人が欲しくはありませんか、大学時代の交流は短くとも、この様な時同窓会の存在を必要とするのではないのでしょうか。

或る、力のある同窓会は、後輩の住居の世話、商談の中介、在校生の就職のあっせん、在校生選手の応援など実に細やかな手助けをしてくれるところもあります。我々の大学は決して大きい大学ではありませんが、そこで学んだ人々はいかえって親密さが深いのではないかと思うのです。今まで皆様が頼るべき友人の組織がなかった、否あったが力が弱くその存在が知られてい

なかったのであります。同窓会に力がつき全国的に支部を結成し、その繋がりによって活動するならばその成果はすばらしいものでありましょう。

こう考えました時誰れしも同窓会を強力なものにしなければならぬと言う結論になるはずであります。

母校は着実に発展しつつあります。学生寮や体育館の建設もあり、驚くばかり様相を一変しました。又周囲の街並の変貌も見違える程です。時は流れ世の様も移り変わりました。しかし、変らぬ友情の交流の場として同窓会はあらねばならぬのです。

昭和47年に私どもの同窓会は発足しました。種々のなさねばならぬ事を遂一実行に移したいと思いながら正直焦りました。仲々思うにまかせず、今日に至りましたがともかく失敗を怖れず、同窓会の強化に踏切ろうと云う事になり、全く御手盛であります。世話人会的同窓会の役員会をつくりました。皆様の指摘があるでしょう。君等は誰れに支持されて役員になったのか、又誰れの議決を得て規約等をつくったのかと。

いわれる通りであります。だからこそ総会を成立させたい、役員会は目下選挙管理委員と思ってもらってけっこうです。だから世話人会と申し上げているわけです。規約も暫定規約とでも申しておきましょう、この同窓会の第一回総会後に始めて信任された役員会と規約、活動方進が定まるのでありますが、いづれにしても先づは総会を開く事に帰着するのであります。今年は久留米工業学園としまして20周年に当ります。大学当局もこれを記念し事業の企画がなされております。この時に歩調を合せ私しどもの同窓会も第一回の

■ 総会開催場所 久留米工業大学体育館

■ 時間 午前10時より

総会を開きます。

総会の決議を口火として活動に入りたいのであります。現在の世話人会的役員会は目下総会を成功させるべく評議員の方々の協力を得て狂奔いたしております、願わくばこの紙面を見られた同窓生諸兄、総会に参加して下さい、友人の手をとって大学の校門を再び入って下さい。懐しい大学や久留米の街は、諸君が郷里に戻ってこられる事を待っています、そして同窓生相互の交流を全国的規模で始めようではありませんか。我等は独りにあらず約4千名の兄弟がいる、我等又4千名に止まらず数万の子等がつづくのであります。不肖私し今回世話人の代表として軽輩の身を顧みず今回総会のお世話をさせて頂きますが、何分にも浅学非才自信は全くありません、只々同窓生諸兄の積極的支援を頼むのみであります。

「一粒の麦地に落ちて死なずは一粒にてありなん」と言う聖者の論があります。世話人諸氏にお願いします。私しどもは一粒の麦になりましょう。多くの実を得るために地に落ちねばならぬのです。4千の同窓生と数万の後輩の為今ここに産みの苦しみを受けているわけです。同窓生の中から協力も得られるでしょうが逆に不備を指摘されたり、怠慢を責められる事もあるでしょう。荒波は覚悟せねばならぬと思います。しかし引き受けた以上力の限り役員一同心を一つにして何かをなし遂げようではありませんか。総会の成功と、支部設立こそが私しどもの課せられた仕事であります。種々御手数を煩すと思いますが積極的活動を期待します。

学校当局にこの紙面を借りてお願い申し上げます。私ども同窓生一同皆年若く新進気鋭とは言え何分にも経験乏しく、同窓会の有るべき姿を模索しております。強力な先達もなく、古き伝統也没有ません。この同窓会の脆性がこのへんにあらうかと思われまふ。しかし今よりこの大学のある限り長い長い歴史は続くわけです。この様に思つて参りますと、私どもの如きが初期同窓会を開幕する事には慄然たるものがあるわけです。



体育館 昭和53年3月完成

が、しかし矢は放たれねばならぬ事になりました。思うに大学とは何か、私の一存で甚だ独断的かもしれませんが、大学は単に理事会、学生、教師でなっているものではなく、後援会や私ども同窓生も構成員であると思っております。人は大学に在学中のみ学べばよいというのではなく、社会に出て人と人との交流の中で色々の新知識や疑問の解決が必要になります。時には種々の研究を大学に依頼する事すらあるのではないか、その様な場合こそ同窓会が必要になると信じます。目下のところ組織も財政も弱体でかえって大学当局の重荷かもしれませんが必ずや近い日に若い人々は立派な同窓会にしてゆく事と思います。在学生への応援又は経済的支援、就職あっせん、大学事業への協力等々同窓会が目標として掲げる仕事は一杯あります。何卒長い目をもってその育成に御協力を賜ります様お願いする次第であります。

有限会社 久留米塗装工場

卒業生の成長に思う

高 島 則 信

私が久留米工業学園短期大学の就職課に籍をおいたのは、10年前の寒い一月でした。

あれから10年、今更乍ら月日の流れの早いのに驚いています。10年後の今日、4千5百余名の卒業生を送り出しております。その短期大学の開学十周年を迎えて、昭和51年4月より久留米工業大学として四年制大学の仲間入りをしました。

振り返りますと、第1回卒業より10年間就職課一途すじに学生諸君の就職に携わって大変私は仕事に喜びを感じると共に、悔いのない事を痛感しています。

何故なら、卒業生皆さんがそれぞれに成長され、社会の一員として、大いに貢献され、その職場職場に於

いて重要なポストにまで成長されている事を知らされるからです。来校される会社の方々に、本学卒業生は「優秀ですよ」とか「真面目で仕事もよくしてくれます」と聞かされるたびに、在学中の皆さんの姿が思い浮かびます。中には転職され、立派に、自分の職をまっとうされているとも聞きます。

何度も書くようですが、10年の歳月のうちには、個人個人にとって色々な事があつたと思います。仕事が思うように行かなかつたりくさって辞めてしまいたい思いであつたり、種々喜びや、苦しみの連続だった事でしょう。

「もうは未だなり」この言葉を学園理事長の大山先生

が何時も話されていた事を思い出し、私もまさにその通りだと考えます。もうこれでよし、これで安心だということとは決してない、まだまだこれからだと、いう気持ちをもって、努力され、前進して下さい。

一口に十年と云いますがそれは皆さんにとって、長い年月に思えるでしょうがその年月に、苦勞に苦勞を重ねてこそ、成長し、社会に貢献出来る人間になり得るものと確信します。

「親の心子知らず」と昔の人は良く云いますが、二兄、三兄の父親になられて初めて知らされる事でしょう。「親孝行したい時に親はなし」の後悔のないよう、今

の内に少しでも親孝行をして下さい。このことを特にお願いします。

どうかこれから、苦しみや、悲しみにぶつかることでしょうが、一つ一つのりこえ、努力に努力を重ねて、家族の皆さんのためそして社会のために、頑張って邁進されますようお願いします。

最後になりましたが、お滋様で母校も、久留米工業大学と改名し、成長しています。久留米にお運びの折には、是非お立寄り下さい。

それでは皆様の健康と奮闘をお祈りします。

久留米工業大学 厚生課長

草 創 の 想 い 出

毎年3月になると多くの学生達が社会へ巣立っていく、長年教師をしている私はこのような情景には馴れているつもりであるが、今年は何故か一抹の寂しさが心をよぎった。

それというのも今年が短期大学最後の卒業生となり事実上短大が閉鎖となるからである。顧みれば昭和41年4月、多くの人々の期待を集めて久留米市の南の小高い丘の上に四階建の校舎とそれに実習場だけで発足した。勿論学科も自動車工業科だけである。それから十数年の歳月が過ぎた。その間短期大学と共に歩み、学生と苦楽を共にしたその愛着のためなのだろう。

今は四年制大学に飛躍的な発展を遂げ、校舎は勿論のこと、学科も学生数も増えた。殊に新装なった体育館の偉容などは当時の短期大学とは隔世の感がある。

その大学の研究室で、静かに歩いてきた日々を偲ぶ時、草創の頃の幾多の思い出が走馬灯のように脳裏を駆けめぐる。その頃の学校の周りには建物などはなく茶褐色の山肌と一面の草むらで、休休みなどに実習場の裏の方へ行けば草むらから蛇が飛び出す有様であった。あるいは夏の夜間講義の折りに蛾の大群が教室の中まで押し寄せる始末であった。そのような夏の風物詩は今は見られない。想えば乏しい中で教育ではあったが、毎日が充実した楽しい生活であった。因に、学生数は一部が200名余りで、A組からD組まで四クラス、二部がE・Fクラスで100名足らずの編成だった。学生諸君も、極めておとなしく、しかも真面目で殊に二部は大半が社会人で年輩者が多く講義も熱心で未だに一人一人の顔が昨日の出来事のように思い出される。さて、思い出の二コマとして当時の学生諸君のプロフィールを二、三紹介しよう。

先づAクラストップの新君。四国出身でなかなかの美男子で映画スター並み、次は蘭君、佐賀出身の温厚な学生、現在佐賀地裁勤務、それに池永君、クラス委員として活躍、本学の才女と見事ゴールイン現在大分トヨタ勤務。Bクラスでは特筆すべき学生は正宝君、彼は稍年輩になって入学した努力家、真面目さも抜群佐賀マツダ勤務、佐藤、園木両君は卓球部員二人とも極

めて無口な学生であった。Cクラスでは鶴田君、彼は久留米の出身でバレー部のキャプテン、現在NCR宮崎支社勤務、それに中村君、三瀧の出身で極めて温厚な人柄、しかし卓球は抜群で部の中核的存在現在母校勤務、更に浜田君、彼は確か、唐津から遥々汽車通学をした努力家。Dクラスでは村上君、彼は人柄もよく抜群の学生で現在は名城大学勤務。なお、特に印象深いのは、多くの男子学生に伍して頑張った三名の女子学生が存在である。次は二部学生であるが、私には特に印象が深い。先づEクラスの梶村（現平川）君、近藤君、Fクラスでは、東（現伊藤）君、藤本君、福島君、永松君、また異色の存在として印象深いのは田代君、手塚君、その他、数えればきりが無い程である。この学生諸君とは卒業式当日の盛大な送別会の思い出は私にとって生涯忘れ得ない。

私は、その頃は教務の仕事をしていた。仕事は非常に忙しかったが、若かったせいか仕事が終ると夕暮れまで卓球の練習に汗を流した。勿論体育館はなく卓球室とは名ばかりで、空部屋を利用した狭い所での練習で対外試合など思いもよらなかった。だが言い知れぬ喜びがあった。それは、乏しい施設とはいえ、教師と学生との心と心の触れ合いの中に明日の人生を語り、夢と希望に満ちていたからではないだろうか。当時、高校を卒業した紅顔の学生諸君も、早や30の峠を越えた中堅幹部となり、また家庭にあっては才媛の妻を嫁り、良きパパとなったことだろう。数年前就職関係の仕事をしていた頃は、会社を訪問して卒業生諸君の近況を聞くのが唯一の楽しみであったが今はそれもない。これも矢張り時代の流れなのであろうか。時は移り人は変わってしまった、世の中は益々巨大となり愈々疎外化の傾向をたどる今日、とすれば失なわれゆく人と人との温い心の触れ合いこそ形成期の道程にある学生には最も大切ではないだろうか。短期大学が閉鎖となり、新しい歴史が始まったとはいえ、草創の頃、学生と共にクラブ活動に、短大祭に顔に汗して演じた人生のドラマは永久に忘れることはできない。

久留米工業大学 教養部講師



10年のあゆみ

佐藤 季雄

久留米工業学園短大は、昭和41年1月に誕生した。学長に佐藤博先生就任、着任した教員は数名、工事中の施設は次のとおりである。

区 分	当時の面積	現在の面積
校 地	30,000㎡	86,000㎡
校 舎	1,500㎡	22,000㎡
実験・実習場	1,000㎡	5,000㎡

スナッフは設置当時の見取図である。風物総て隔世の感があり当時を偲ぶことができる。

4月開学を控え、学園あげて取組み、計画に基づく教職員の充足、設備の充実が急ピッチで進められ、予定のとおり自動車工業科第一部・第二部第一回生を迎えることができた。予て申請中の二級整備士受験資格について、運輸省の厳格な審査をパスし、12月運輸大臣の認定書を受領した。本年は福岡市で福岡第一回国際マラソン選手権大会が開かれた年である。

「昭和42年」＝第二実習場竣工、実習教育の充実をめざし、機械器具、教材の充足を図る。体育では、野球場及びグラウンド整備が行われた。大山理事長の発議により、シルクロード遠征の夢をかけて、夏季休暇中に自動車遠征を立案第一回九州一周を行った。翌々年から日本一周遠征のさきがけとなる。本年は、九州に高速自動車道の夜明が訪れ粕屋町で始めて高速道路の杭打ち式が行われた。

「昭和43年」＝3月28日第一回生一部・二部 259名の卒業式が挙行された。9月、2号館校舎の地鎮祭を執り行う。11月、体育祭及び整備競技会を開催した。本年は明治百年にあたる年である。

「昭和44年」＝3月、二号館校舎完成、第二実習場が竣工した。第三回卒業式は、新装二号館の講堂において挙行された。夏季休暇中に男子部第一回日本一周、女子部第一回四国、中国一周遠征に成功した。11月第一回短大祭発足、前夜祭を含め多彩な催しにわいた。今日の大学祭に発展している。異色は自動車部主催ラリーである。無事故を念じ心労の日でもあった。本年は、筑後川総合開発「マスタープラン」が北部九州水資源開発協議会により始めて机上にのぼった年でもある。

「昭和45年」1月、自動車工業専攻科設置認可、2月運動場屋外ステージ及び洗車場の屋根工事が完成した。4月、自動車工業科及び第一回専攻科学生の入学式が挙行された。夏季休暇に入り、日本一周遠征と共に自動車診断学外実習を行い成果をあげた。以後恒例行事として継続された。本年は、大阪万国博覧会開催の年で大変な賑い方であった。

「昭和46年」＝教育、諸行事共に順調に進捗し、円熟した自動車短大として内外の信望を得、進歩発展した。

「昭和47年」＝佐藤学長は、教育功労者として宮中において陛下に拝謁、勲二等に叙せられ瑞宝章を授けられた。5月、学長の叙勲祝賀会を兼ね記念講演会が開催され、学生、職員一同心からお慶びを申し上げた。設備工業増科の準備に入る。6月、本館建設着工、本年は、沖縄復帰、沖縄県発足のおめでたい年である。

「昭和48年」＝1月、設備工業科設置認可、3月、本館落成、4月、自動車工業科及び第一回設備工業科学生の入学式が挙行され、教職員既に充実し順調に発展

した。本年は11月、関門橋開通、九州高速自動車道鳥栖—南関40.2キロが開通した年である。またオイルショックに伴い、灯油の値上がり、各地でトイレットペーパー、砂糖など物不足、買占めさわぎで大変な年となった。

「昭和49年」＝専攻科第四回生クラス同窓会「納良会」結成、創立十周年記念図書館の建築工事着工、四年制大学設置委員会を発足諸準備に入る。本年は、全国高等学校総合体育大会が久留米市において開催された。

「昭和50年」＝本学の命運をかけて大学設置に踏切る、短大は昭和51年度以降募集を停止することとなった。大学設立期成会発足（会長近見久留米市長）決意を新に久留米工業大学設立に邁進する。3月、記念図書館落成。国の高等教育計画に基づく大学設置の審査は殊の外厳しく、全学園の強力な支援のもとに全智全能を

尽し漸やく申請の受理を得た。本年は、新幹線博多開通、沖縄国際海洋博が催された年である。

「昭和51年」＝1月、久留米工業大学設置認可

機械工学科 入学定員 70

交通機械工学科 〃 60

建築設備工学科 〃 60

4月、一年次及び編入二年次学生の入学式を挙行了。昭和53年度は大学完成年度にあたり全年次の学生が、在籍することとなる。大学設立以来、体育館、厚生会館、学生寮の建築が竣工、正門前の溜池の埋立は本年9月には完工することになる。本年度着工の校舎は情報処理センターであるが逐次実験棟、運動場拡張等急を要する事業が山積、大学としての偉容を整えつつある。同窓生諸氏の御来訪をお待ちします。

久留米工業大学 事務局次長

10年の歳月に思うこと

立 石 寿満子 (旧姓平田)

早いものだなあ。卒業して、もう、十年にもなるのかしら、と年月を数え直して、改めて、少年 老易く学成り難し……の感も一塩といったところです。

学校の発展の様子を、耳にするにつけても嬉しい反面、何となく、自動車とすっかり縁遠くなってしまったことに、後めたいものを感じるのです。

そもそも、自動車と私との出会いは、父の病気で、ガンかも知れないから、帰って来て欲しいという母からの手紙に、東京の大学を中退、帰っては来たものの父はガンではなくて、方向を失った私は、自動車の免許でも取ろうと、久工学園の自動車学校の門を叩いたのが39年でした。運転だけ出来ても、車の事を知らなければ、車には乗れないと、学園の整備学校へ一年、籍を置いたのが病み付きとなって……。

6年間もの長い付き合いとなったわけです。

その間、悩みは尽きず、やっぱり女には、無理なんだと、何度、あきらめようと思ったでしょう。でも、その都度、賭けをしてみるのです。

例えば、大型車の免許を取りに行った時もそうでした。免許が取れなかったら、整備士になるのもあきらめよう、と決めるわけです。

自動車学校で練習をして（学校で免許を取る人の半分の課程で）一般から受けに行くんですけど、三度目にやっと受かった時は、ほんとに嬉しくて、そうやって、ますますのめり込んで行ったわけです。

だから、整備学校を卒業後、広島ダイハツに務めていた時、短大が設立され、母が行っても良いと言ってくれた時は、今しか勉強出来る時はないんだと、迷うこともなく、短大に入学することに決めてしまったのでした。

最初は、時期が少し遅れたため、入試を受けることが出来なくて、聴講生として入学、二年生で編入させ

ていただきました。

でも「仕事を生き甲斐にして生きよう」と意気がついた時代も、今では、遠い思い出となってしまいました。

仕事か、結婚か……なんて、賭けをして自分を試すつもりで、高校時代の後輩達の夢に乗っかって、アメリカ大陸を車で縦断する夢をみたのです。結局、夢破れて、結婚に賭けることになりました。（女は抜け道があつて……云々と、言われそうですね。でもね。これでも真剣だったんですよ。）

「目が、澄んで生きていたから結婚する気になったの。」と言う私に、

「人を、魚みたいに言うな」と笑う夫。

商社勤めの主人と結婚して、二年たたないうちに、二男一女と、双子に年子の一挙に三人の子持と相なり・とにかく、めまぐるしい月日でした。

海外出張が多く、三ヶ月、半年と留守の多い夫、もう、夢中で、三人の子供を育てて来ました。そして、やっと、上の二人が一年生。

ほんとに、ほっとして、ほんの少しだけ、心のゆとりを取り戻し、好きな手芸にでも、熱を出そうか……というところで……。

神は、まだまだ、私に、休暇を与えたまわらず、ただ今、四人目に挑戦中といったところなんです。大きなお腹をさすり乍ら、またまた二人では……？と戦々恐々の私。

「一人多くても、ついでだ！」と言ってくれる主人に、励まされて、今はただ、大地のような母親になることに賭けて頑張っているのです。

自動車にあこがれ、引きづられていった六年間は、やはり、私にとっては、青春であり、未熟ながらも、一つの正念場でした。

教壇での一年半も、懐かしい思い出となりました。

まだ、うら若き女性(?)でしたし一杯に背伸びして、気持ちのゆとりはなく、からっぽの知識で、私に教わった皆さんには、ほんとうに申し訳なかったと、今でも冷汗が出て来ます。もう少し、年を取っていたらなあ、それが残念です。

今は、子育てに専念している毎日ですが、子供が大きくなったら、又、勉強し直して、何らかの形で、生かせたら良いなあというのが、今の気持ちです。

頑張っています

昭和48年3月25日、久留米工業学園短期大学を卒業して、またたく間に5年の月日が流れてしまいました。

私は卒業してすぐに、当時、福岡ダイハツに勤務していた主人と結婚し、現在3人の子供達に囲まれて、仕事に、育児に忙しい日々を送っております。

私は今、祖父の時代から続いている家業の二輪・四輪の販売と、自動車整備工場を5年前から加えて、父主人・それに5人の従業員と一緒に働いています。

今迄の仕事といえば、家事・育児と事務一般などが殆どで、二年間、短大で一生懸命勉強した整備の仕事は、皆無といって良い程でした。そのせいか、一生懸命勉強したはずの、その自動車整備の仕事に対して今では全く自信が無くなってしまいました。

在学当時の事を思い出すと、いろいろな事がありました。

自動車部に籍を置いて、フィギアの練習で手に豆を作った事や、ラリーで夜遅くまでコース作りに走り回った事。又、真夜中のチェックポイントで、出場者にコーヒのサービスをした事。どれもこれも、皆楽しい思い出です。

なかでも名古屋であった大学対抗整備大会の全国大会に出場した事は、一番、懐かしく思い出されます。

整備大会に出場するという事は、1年生の時から夢でしたが、賞品の自動車を目指して、たった1人の女性のクラスメート、古賀三紀子さんと一緒に、頑張って出場する事が出来ました。いま思えば、彼女は最良のクラスメートだったと言えます。彼女という優秀な友人が居てくれたおかげで、共に競い合い、励まし合って大会に出場する事が出来、1日目の予戦は、第1位で突破する事が出来ました。「これなら、車も夢ではない!」と張り切ったのですが、2日目の本戦では心ならずも、4位という成績に終わってしまいました。(出場校は、女子30校男子は良く覚えていませんが、100校余りではなかったかと思います。)3位迄は胸にメダルをかけてもらう事が出来たのですが、私達は、それも叶わず、悲しくて、涙が止まらなかったものでした。そういう訳で、満足するには至らない結果でしたけれども、自分達なりに、やれるところ迄は、やったんだ!!と思えた事と目標に向かって、みんなで

それに、冗談みたいな我家の夢を一つ

大きなキャンピングカーを仕入れて、大きくなった息子達に運転させて、一家、世界中を放浪の旅。その時、主人は車の後にふんぞり返って、グビリグビリと、ブランデーを飲みながら、付いて来るんだそうです。

あと15年もすれば、そうなるのかなあ。

私の生き方も、10年の歳月を経て、ずいぶん変わりました。

第一回卒 主婦

真鍋みどり(旧性山口)

精一杯、努力をした事が、2年間の学生生活を、より有意義なものにする事が、出来た原因だと思っています。

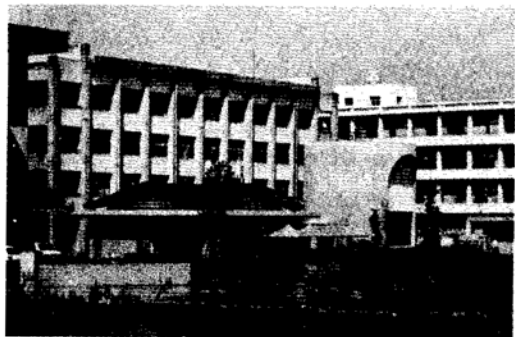
それから5年間、やはり忙しい毎日の中で、本当にあっという間に時間が過ぎてしまった様な気がします。

今年の3月、新店舗を、私が検査主任者として、認証工場の申請をし、今では実際の技術も満足でないままに、検査主任者という役目を果しています。5年間も実務から遠ざかっていると、何もかも忘れてしまい、いちいち、勉強のやり直しをしなくてはならない仕事です。もうすっかり、しまい込んでしまっていた、古い教科書を引き出して見ては、あゝ、こんな本もあったっけ、こんな事も教わったっけ……などと、思ったり、本やノートの落書きなどを見ては、当時の事を、懐かしく思い出しています。私よりも年も少なく級も上取っていない人達の方が、はるかに頼もしくて、今さらながら、はずかしい思いをしています。

そういえば、福岡県で、女性の検査主任者というのは、他に三人おられるそうです。(これも、短大の時の友人が忙しい時間をさいて、調べてくれたのですが)その中の2人の方は、年も40才位の方で、私の様に、学校等へは行かず、自分だけの独学で、二級に合格されたのだそうですが頭の下がる思いがします。そういう方々に、はじめる事のない様に、今後も、一生懸命、努力したいと思っています。

最後になりましたが、皆様のご健康と今後のご盛栄を心よりお祈り申し上げます。

第6回卒 山口サイクル



厚生会館 昭和53年3月完成

我が職場のOB群

藤 木 礼 作

私は当福岡トヨタに入社して10年余になる。久工大を卒業し、青春を回想してみても一番大きなウエイトを占めているのは、母校での色々な思い出である。それは炎天下でのアルバイト、暖房設備もあまり整っていなかった頃の実習工場、そして学期末試験etc……あの短い2年間は、全てが現在の私の仕事の基礎になっていると言っても過言ではないと思う。

『社会人とは、過去にどれだけの強い、くいのない青春の思い出を持っているのかで将来の人生への活路を見い出せるバロメーターになる』という言葉が、現実

に私の実感として、とらえることが出来る。数日前の調査で60数名の後輩が在籍していることを知り、一期生としての自負心と同時に彼等に対する社会的責任を痛感せざるをえなかった。この集団と同窓会プロジェクトチームとの結合を今私の一番の至命と思い、はやる心を押えて毎日を過ごしています。現在、当営業所に4名おりすべてが重要なポイントに席している。彼等は助言もするし、私の心を見抜くように指示に従い協力し、行動してくれる。これこそ言葉では言い表わせない力強い何かだと思う。我が社のみならず各企業のどこでも、こういう光景が絶対あるはずに違いない、又あるはずである。この事実を大きく広げ掌握し同窓会を継ぐ大きなパイプラインとして皆さんの発展と協力を期待してやまない。

副会長

第1回卒 福岡トヨタ柳川営業所

私の人生

蒲 池 光 幸

久留米工業大学を卒業して私は親の反対を押し切り神奈川県にあるトヨタのディーラーに就職しました。親の反対の事ですが私は一人息子として生まれ当時、父は地元でタクシー会社を経営していた事から地元の就職を希望していました。しかし、なぜ私が県外就職を希望したかと言いますと、私は一人息子で育ったせいか自分自身に甘えている事が卒業時に分かったからです。このまま地元で就職し、親や世間に甘え、自分に甘えては一生平凡な人生に終わってしまうのではないかと思ったからです。そういう意味で自分自身を鍛え直したかった訳です。この事を両親に打ち明けやつの事で納得してもらいました。そういう訳で夢をふくらませて就職しました。初めて働く場所世間に出た実感が湧いて来ました。やはり会社は学校とは違い厳しいものです。汗を流し学校で習った事を一つ一つ思い出し早く仕事に慣れるよう頑張ったものです。そして最初にもらった給料が本当にうれしかった。今でもその頃のことが、なつかしく思い出されます。私の仕事は技術の方で整備士でした。暑い日も寒い日もありこんなに苦しいものかなとよく思ったものです。学校

の時は風の当たらない実習室だったのが職場では雨の路上や手も凍るような寒い場所での作業等どれをとっても厳しいものでした。おかげで現在では以前と違い成長したように感じます。やっと今になって世間というものに分かったような気がします。しかし人間の人生とは真に分からないものです。どういう事かと言いますと、運命のいたずらで、ある日、ある人と出会い自分の進路が変わってしまいました。会社で突然営業のことを勉強させられ、人間社会へと足を踏み入れたからです。その時又改めて世間の広さに感動しました。営業を通じていろんな人と接触しているうち職業が多いのには驚きました。自動車関係ばかり勉強していたせいか世の中にこんな職業もあるのかと思ったものです。現在私は喫茶店を営んでいます。学校とは全然無関係なようですが学校を卒業し、就職し、そしてそういうきっかけを作ったからです。私は営業を勉強して本当に良かったと思います。営業をする以前は視野が狭く感じたものですが、いろいろ社会に出て視野が広くなり今の職業を築いたからです。人間やれば何でも出来る。それが私の信念です。まだこれから長い人生が続きます。悔いのない人生を送っていききたいと思います。同窓生の皆さん、これから先、苦境にも負けず頑張って下さい。

監査

第4回卒 喫茶サンラビ

後輩を送り出す

同窓の先生方

同窓生で、母校を職場とし、後輩の教育に精を出して働いておられる先生方を紹介します。

自分の学んだ学校で後輩となる学生と一緒に勉強し教授することの誇りと、その後輩を社会に送り出す責任とを両立され、大変忙しい毎日をお過ごされます。このほとんどの先生方が短大の学生時代に学習したのは自動車に関する整備技術が主で、理論的な事は非常に少なく、範囲も限られていました。ところが母校の

成長は速く、組織的な形態が変り、教育内容についても各専門について部門ごとに行なわれるようになりました。

同窓の先生方も、建築設備工学科、交通機械工学科、機械工学科、自動車専修科と、それぞれの学科に所属されて、工大としての新しいことを勉強され、後輩から信頼される先輩となり、社会から信頼される後輩を送り出すよう、精一杯努力されています。

ここにその先生方を紹介します。

第1回卒 北島良清 自動車専修科

井上利明 機械工学科 中村金次 交通機械工学科

第2回卒 中園重利 交通機械工学科

龍 英夫 交通機械工学科

■ クラブ活動紹介 (昭和53年度)

空手道部

第22回全日本学生空手道個人戦

・1回戦久工大東條豊久・本勝日本歯科大(水島) ・2回戦久工大東條豊久・本勝立命館(上村) ・3回戦久工大東條豊文・延長の本判定勝利(小山) ・4回戦久工大東條豊文・本勝名古屋商大(大東) ・準々決勝久工大東條豊文・延長3回判定負け日本大学(愛川)

尚東條豊久君は全九州からただ1人ベスト8

全九州空手道個人戦 東條豊久第3位

九州地区大学体育会 (インカレ)

・1回戦不戦勝 ・2回戦久工大0-1九州学院大学4引き分け OBの古堀好・君(6回卒)は、52年12月於日本武道館で世界選手権大会に日本代表で出場 東條君は、日豪親善学生空手道大会遠征に日本代表として出場 OB新野豊文(6回卒)君は、53年7月全九州空手道個人選手権大会出場、みごと優勝 OB新野君と伊波久彰(交通4年)君は、53年度団体の福岡県代表

ハンドボール部

九州地区大学体育大会 (インカレ)

・1回戦久工大23-13熊商大 ・2回戦久工大20-14西南大
・3回戦久工大25-11長崎大 ・準決勝久工大17-17九州大
延長で惜敗 ・3位決定戦久工大27-14沖国大
3位入賞、全国学生ハンドボール大会に出場決定

西部日本学生ハンドボール大会

・1回戦久工大18-12熊工大 ・2回戦久工大21-20福教大
・3回戦久工大15-14熊大 ・準決勝久工大13-15福大
・ベスト4入賞

福岡一部入替戦 久工大28-16西南大 本校1部に入る

剣道部

全九州学生剣道大会個人戦

・1回戦久工大堤メー熊工大(藤川) ・2回戦久工大堤

コマー東和大学(野村) ・3回戦久工大堤ドード熊大(飯盛) ・準決勝久工大堤コマー福工大(田中) ・決勝久工大堤コマー福工大(小田) 堤俊(建築2年)君、優勝団体戦

・1回戦久工大5-0大分大学2引き分け ・2回戦久工大6-1大分工大B ・3回戦久工大3-3大分工大内容勝ち1引き分け ・準決勝久工大2-5西日本工大

尚本校は第3位入賞

西日本学生剣道選手権大会

・1回戦久工大3-3大阪産大、内容負け

全九州個人戦

・1回戦久工大堤ドード熊大(脇田) ・2回戦久工大堤メー大分大学(森) 久工大(渡辺)→コマー福大Ⅱ部(石井)

野球部

九州地区大学体育大会 (インカレ)

・久工大2-3九州工大

全日本学生野球九州地区予選

・久工大0-6大分工大

自動車部

全日本学生自動車整備技術選手権大会

・予選14位(参加校63校) ・本選7位(参加校28校)

九州大学自動車部主催インカレラリー

・Aチーム15位 Bチーム29位

全九州学生自動車運転競技選手権大会(新人戦)

・小型乗用17位 ・普通障害物接触により失格 ・小型貨物

四輪脱失格 ・普通貨物タイムオーバー失格

卓球部

春季福岡地区リーグ戦

・久工大0-3九州共立 ・久工大0-3八幡大 ・久工大0-3九州大

サッカー部

西日本大学サッカー大会

久工大1-3広島経済大学

■ 会費納入はされましたか？

秋風さわやかな候となりました。同窓会々員皆様につきましては、日々すこやかにお過ごしのことと存じます。さて11月中旬には、第1回同窓会総会を開催の運びとなりました。

ところで、同窓会々費の納入についてですが、昭和53年3月現在、同窓会々員数 4,393名中、約50パーセントの方が納入を完了されておられます。全員納入完了はまだみておりません。そこで、お願いですが、事務局としても第1回総会を向えるに当って、時節がら

色々と物入りとは存じますが、終身会費2千円の納入を早く完了していただきたいと存じます。終身会費につきましても物価の値上り等により同総会の運営に支障をきたすことになる為、第1回総会です承されれば2倍以上の値上げをすることとなります。

早急に納入されるようお願いいたします。最後に同窓会々員の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

記

送り先

久留米市上津町字野2228の66

久留米工業大学同窓会事務局 会計宛

■ 支部誕生！

支部名	支部長名
久留米支部	小山田 茂 幸
大牟田支部	谷 口 朋 治
八女支部	倉 数 信 夫
筑後支部	姫 野 憲 司
福岡支部	倉 町 賢一郎
甘木支部	富 安 清 志
筑豊支部	末 次 広 行
佐賀支部	陣 内 久 始
長崎支部	金 子 元 明

現在、以上の各支部が活動しています。今後、各地方においても、支部の結成を期待します。なを、支部結成の際は、事務局までお知らせ下さい。

なお、前記各支部の所属者で、未加入の方は、事務局まで御連絡下さい。

■ 役員(代行) 紹介

会 長	江島 義治	久留米塗装工場自営
副 会 長	古賀 保彦	日本ゴム(株)久留米工場勤務
〃	藤木 礼作	福岡トヨタ柳川営業所勤務
常任幹事	倉数 信夫	八女工業高等学校勤務
〃	井上 利明	久留米工業大学勤務
幹 事	田代 文雄	田主丸小学校勤務
〃	川村 隆記	小松製作所福岡支店勤務
〃	小嶋 剛	福岡トヨタ柳川営業所勤務
〃	橋爪 昭博	福岡日産八女営業所勤務
〃	北島 良清	久留米工業大学勤務
〃	中村 金次	久留米工業大学勤務
会 計	熊丸 広美	久留米印刷勤務
〃	藤木 正信	久留米工業大学勤務
監 査	蒲池 光幸	喫茶サン・ランビ自営
〃	綾垣 通正	久留米工業大学勤務
書 記	龍 英夫	久留米工業大学勤務